

## 2013 年度 高齢者医療・在宅医療 総合看護研修について

### 1. 本研修の目的・目標

わが国の高齢化に伴って、高齢者医療・在宅医療における看護師の役割は高まっている。本研修は、高齢者の医療・ケアに関する様々な知見を体系的に学び、現在の標準的知識・技術として看護実践の場で活用することをねらいとした。高齢者を包括的な視点で捉えてアセスメントや判断を行い、多職種と共に課題を解決していく実践力の高い看護師として活躍できるよう、本研修を企画し開催している。

研修の目的・目標、開講講座と科目目標は表 1 と表 2 に示す。

表 1 高齢者医療・在宅医療総合看護研修の目的・目標

<p>&lt;目的&gt;</p> <p>老年期を生きる人びとの心身の特徴や取り巻いている環境を包括的・全人的に理解し、医学的な根拠や看護の専門知識に基づいて、高齢者医療・在宅医療に対応する実践的な看護師を育成する。</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年期に現れやすい症候や機能障害について理解を深める。</li> <li>2) 高齢者の健康問題の特定や全体像把握のためのアセスメント能力向上となる科学的根拠を習得する。</li> <li>3) 高齢社会の動向や長寿社会のニーズを知り、高齢者にふさわしい医療とケアについて考えを深める。</li> <li>4) 高齢者が人生を終える時期に必要なケアに関する知識や、近年の動向について習得する。</li> <li>5) 高齢者の尊厳や人権を重視し、高い倫理性に基づく良質な医療とケアの実践について考えを深める。</li> </ol>
--

表 2 開講講座と科目目標

講座名	科目目標
高齢者の医療 1・2	高齢者に特徴的な疾病・症候や薬物療法についての理解を深め、高齢者を包括的に診る視点や、症状の観察、判断の要点などについて学ぶ。
高齢者の在宅医療	高齢者の在宅医療に関わる施策や地域連携に必要な知識を深め、退院支援の方法や在宅医療推進について学ぶ。
認知症高齢者の看護	認知症の病態や診断・治療、認知症ケアの基本及び介護家族の支援について理解を深め、認知症高齢者へのよりよい看護について学ぶ。

講座名	科目目標
認知症高齢者の看護・実習	認知症高齢者及びその家族に対し、習得した知識に基づいて実際に関わり、実践を振り返って根拠に基づく認知症ケアへの理解を深める。 ※前年度「認知症高齢者の看護」の講座を受講した者に限る
高齢者のEOLケア (EOT オブ ライフ ケア)	高齢者の終末期に関わる諸問題や近年の動向を理解し、よりよいエンドオブライフを送れるための支援について学ぶ。
高齢者看護実践論 1・2	高齢者の特性に焦点をあてたりハビリテーションや創傷管理、排泄ケアなどの根拠となる知見について理解を深め、看護実践の方法を学ぶ。

## 2. 2013年度のトピックス

### 1) 3日間研修・2日間研修に再編

昨年度(2012年度)同様、より多くの臨床で活躍している看護師が受講しやすい研修となるよう、今年度(2013年度)も短期集中講義形式で開催した(表3)。受講者の数やアンケートからの意見を参考に、「高齢者の医療」に関しては連続8日間コースだったプログラムを、「高齢者の医療1」「高齢者の医療2」とし、それぞれ3日間コースで開催した。「高齢者看護実践論」も3日間コースであったプログラムを、「高齢者看護実践論1」「高齢者看護実践論2」とし、それぞれ2日間コースで開催した。

### 2) 開講式の実施

今年度の開講初日となる2013年9月4日午前10:00より、研究棟2階会議室において、開講式を行った。鳥羽病院長からの開講の挨拶、来賓の愛知県看護協会会長(当日は愛知県看護協会常務理事 川口悦子氏が代理としてご出席)のご祝辞が受講生らに贈られた。

### 3) 「認知症高齢者の看護・実習」の開催

今年度は、「認知症高齢者の看護・実習」として、3日間コースを3クール設定し、定員5名ずつで募集した。昨年度は「認知症高齢者の看護・実習」は申込み先着順で4名までに限定していたため、受講の希望があっても受講できない看護師もいた。また、3日間の講義の後、1日の実習であったため、実習時間の不足の意見があった。そこで、昨年度、受講できなかった看護師の再募集の機会にすることと、認知症の医療・ケアに関して一定の学習歴のある看護師に対し行くと、言語の理解(例えば、パーソンセンタードケア、魔の3ロックなど)がスムーズで、知識と実践・技術がより効率的に浸透し、実習効果が上がると考え、「認知症高齢者の看護・実習」の受講者の受講要件を、前年度に本研修で「認知症高齢者の看護」を受講した者に限定し募集した。募集の結果は6名のみであった。最少履行人数は3名からとしていたので、人数調整を行い2クール開催した。

### 4) テキスト作成について

各講座ごとにテキストを作成し、全7巻のテキストが作成された(図1)。テキストの体裁は認知症サポート医研修の体裁を参考として作成している。見開きページに関して今年度はスライド2枚から3枚に増やし、それに伴って、右側ページも3枚のスライドのノート部分として作成した(図2)。昨年度同様、テキストは著作権に関する注意を喚起する文章を巻末に記載した。

5) 講義の要点を問う Q&A について

今年度は各講義の要点が、受講者のよりよい理解につながるよう、各講師に講義スライドとともに、3題前後の設問と解答の作成を依頼した。作成していただいた設問は各講義の終盤に、各受講者が解き、講師が解答を解説していくスタイルで展開していった。解答はテキスト巻末に掲載し、講義後も見返すことができるように努めた。

表 3 2013 年度高齢者医療・在宅医療総合看護研修 開講講座

講座名	【期間】 日程	研修方法	募集人数	時間数	研修費	テキストページ数
高齢者の医療 1	【3 日間】 9/4(水)～9/6(金)	講義	50	16 時間	20,000	322
高齢者の医療 2	【3 日間】 9/10(火)～9/12(木)	講義	50	16 時間	20,000	386
高齢者の在宅医療	【3 日間】 9/17(火)～9/19(木)	講義	50	16 時間	20,000	262
認知症高齢者の看護	【3 日間】10/2(水)～10/4(金)	講義	50	16 時間	20,000	225
認知症高齢者の看護 実習	【3 日間】 8/28(水)～8/30(金) 10/8(火)～10/10(木)	実習	各 5	20 時間	6,000	—
高齢者の EOL ケア	【3 日間】10/16(水)～10/18(金)	講義	50	16 時間	20,000	293
高齢者看護実践論 1	【2 日間】10/29(火)～10/30(水)	講義	50	12 時間	15,000	248
高齢者看護実践論 2	【2 日間】 11/6(水)～11/7(木)	講義	50	12 時間	15,000	230

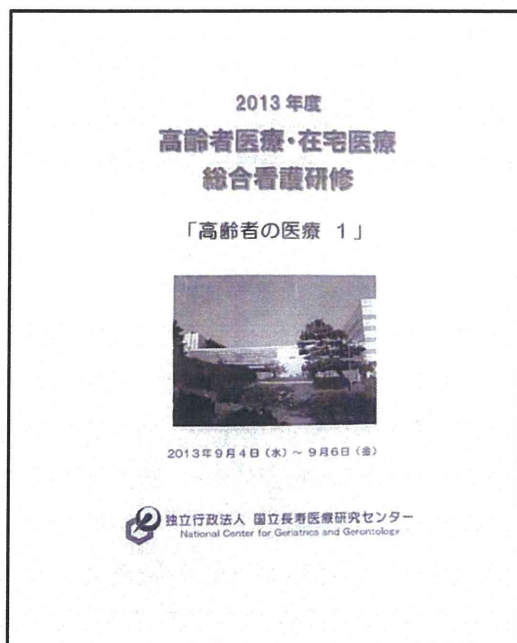


図1 「高齢者の医療1」テキスト表紙

テキストは図書室に保管

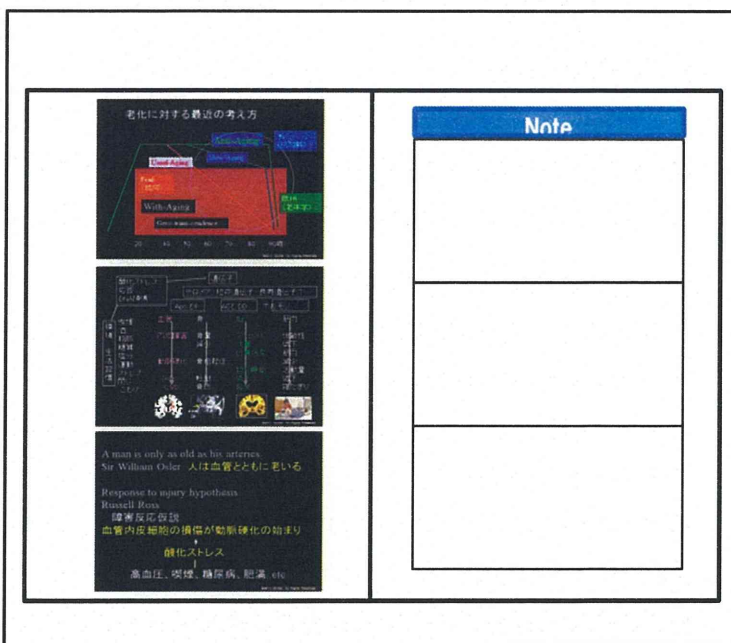


図2 テキストの構成

認知症サポート医研修のテキストを参考に、講義資料は見開き左はスライド3枚、右に Note を配置。テキスト全7巻すべて合わせ、スライドは約 2360 枚となる。

3. 研修の募集と受講希望者について

本研修の募集期間は、2013年4月1日～6月29日の3か月間とし、各講座定員20名、最小履行人数5名、実習は1クール定員5名、最少履行人数3名で募集を行った。募集要項は、ナショナルセンター、国立病院機構、大学病院、愛知県内医療機関・施設など2,000弱の病院・施設の看護部宛てへ郵送した。また、当院のホームページにもアップした。

## 1) 受講者概要

募集期間中の応募者は、昨年度より18.1%アップし、111名(昨年度94名)であった。募集期間後にも1名の受講希望者があり、定員に余裕があったため受講を受け入れた。開講前にキャンセルが1名あり、実受講者数は111名であった。開講前の受講者変更願いが昨年度はなかったものの、今年度は2名からあった。今年度は定員を上回る応募はなく、「高齢者の医療1」「高齢者の医療2」「高齢者の在宅医療」では、15名～17名の応募状況であった。最少履行人数には達しなかったものの、全国からの応募があり、受講ニーズに応じるため開講した。

実受講者111名中24名(21.2%)が複数の講座を受講し(図3、表4)、のべ受講者人数は158名(昨年比+14名)であった。のべ受講者158名のうち、修了証を授与した修了者は156名(98.7%)であった(表5)。修了証授与の条件は、各講座の期間中、皆出席で欠課のなかった受講者、修了証授与に至らなかった2名の理由は、台風による受講困難、勤務の調整困難による欠席であった。

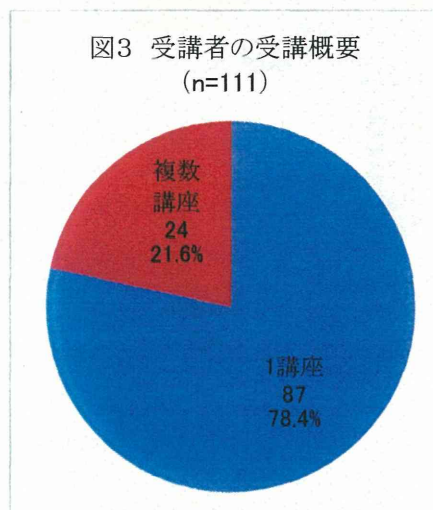


表4 講座受講の内訳(n=111)

受講講座数	人数 (%)	2012年度 人数(増減)
1講座受講	87(78.4)	75(+12)
2講座受講	17(15.3)	8(+9)
3講座受講	2(1.8)	2(±0)
4講座受講	1(0.9)	0(+1)
5講座受講	1(0.9)	
全講座受講	2(1.8)	7(-4)
全講座+認知症看護実習	1(0.9)	2(-1)
合計	111(100.0)	94(+17)

表5 2013年度高齢者医療・在宅医療受講者数及び修了者数

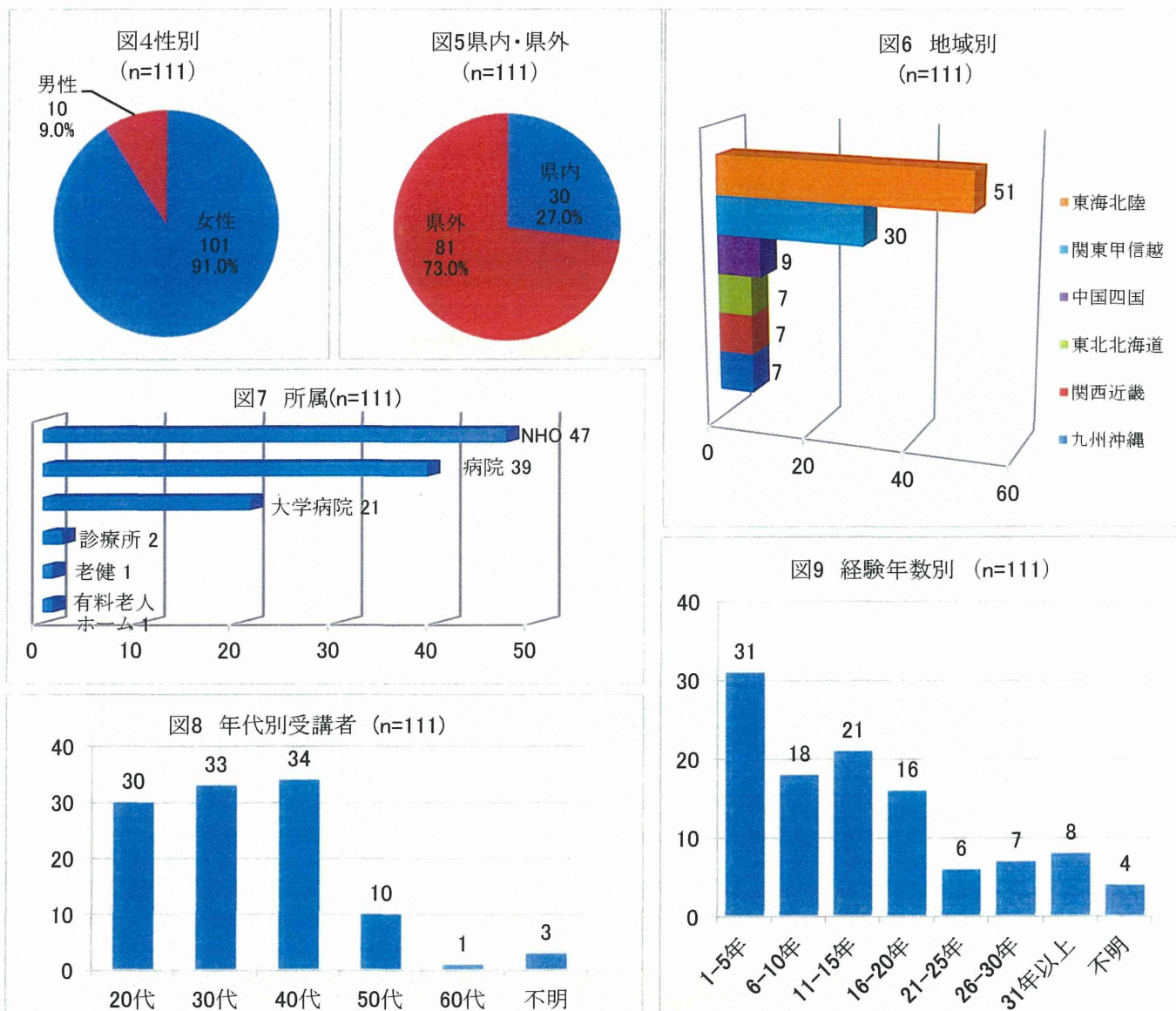
研修名	受講者	修了者(修了率)	2012年度 修了者数(修了率)
高齢者の医療1	15	14(93.3)	9(90.0)
高齢者の医療2	15	15(100.0)	
高齢者の在宅医療	17	17(100.0)	25(92.6)
認知症高齢者の看護	33	33(100.0)	36(97.3)
認知症高齢者の看護・実習	6	6(100.0)	4(100.0)
高齢者のエンドオブライフ・ケア	24	23(95.8)	31(96.9)
高齢者看護実践論1	26	26(100.0)	
高齢者看護実践論2	22	22(100.0)	30(90.9)
合計	158	156(98.7)	135(94.4)

## 2) 受講者の背景

受講者の平均年齢は37.4±9.6歳、平均経験年数は12.9±11.4年であった。性別、県内外からの受講者、地域別の受講者、所属、年代別受講者、経験年数別受講者の結果については以下の図表(図4~9、表6)の通りである。

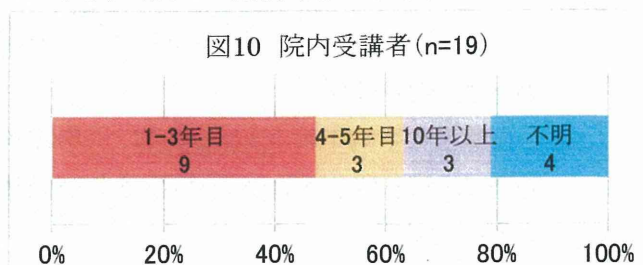
昨年度の受講者の背景と比較すると、性別、県内外でみた受講者数、地域別でみた受講者数は、昨年

度とはほぼ同じ傾向であった。受講者の所属、受講者の年代、経験年数で、昨年度の動向と違いが認められた。受講者の所属について、昨年度は病院が最も多く66名であったが、今年度は国立病院機構が最も多く47名であった。老健・特養・小規模多機能などからの受講者が昨年度は11名であったが、今年度は老健からの受講者1名のみ、訪問看護ステーションからの受講者も昨年度は4名いたが、今年度はゼロと減少した。年代別では、昨年度は50代・60代の受講者が37名いたが、今年度は11名と減少した。経験年数別では、昨年度は6~10年の受講者が47名で最も多かったが、今年度は6年未満の受講者が31名で最も多かった。経験年数40年以上の受講者も7名いたが、今年度はゼロであった。



### 3) 院内受講者について

院内からの受講者は19名(前年度6名)であった。そのうち、当院での勤務年数が3年以内である看護師が9名(47.4%)と最も多くを占めていた(図10)。院内受講者は、各自の休日や夜勤後に関心のある講義や、高齢者医療・在宅医療総合看護専門(クリニカルラダーⅢ以上相当)の院内認定資格申請に義務付けられている講義を受講していた。7つの講座で全52時限ある講義のうち、20時限以上の講義を受けた者が2名いた。平均受講は5.4時限であった。



#### 4. 講師

院内講師は実講師数 36 名(昨年度 28 名)であった。複数の講義を担当している講師や、事例検討においては複数名の講師が担当することもあり、延べ院内講師数 56 名(昨年度 52 名)であった。事例検討では、ファシリテーターとして老人看護専門看護師や認知症専門病棟のナースらの協力も得られた。院外講師は 8 名(昨年度 4 名)であった(表 6、表 7、表 8)。

表 6 院内講師

講座名	講師	担当コマ数
高齢者の医療 1・2 (講師数 13 名) (延べ講師数 16 名)	鳥羽 研二 (病院長)	2
	原田 敦 (副院長)	1
	櫻井 孝 (もの忘れ外来部 部長)	1
	佐竹 昭介 (虚弱化予防医学研究室 室長)	1
	清水 敦哉 (循環機能診療科 医長)	2
	杉浦 彩子 (耳鼻咽喉科 医長)	1
	角 保徳 (歯科口腔先端診療開発部 部長)	1
	徳田 治彦 (臨床検査部 部長)	1
	西村 浩一 (呼吸機能診療科 医長)	1
	服部 英幸 (行動・心理療法部 部長)	2
	溝神 文博 (薬剤部 薬剤師)	1
	吉田 正貴 (手術・集中治療部 部長)	1
	鷺見 幸彦 (脳機能診療部 部長)	1
高齢者の在宅医療 (講師数 4 名) (延べ講師数 5 名)	高見 雅代 (在宅医療地域連携診療部 医療ソーシャルワーカー)	1
	銘苅 尚子 (在宅医療地域連携診療部・副地域医療連携室長)	2
	大島 浩子 (長寿看護・介護研究室 室長)	1
認知症高齢者の看護 (講師数 4 名) (延べ講師数 13 名)	高道 香織 (老人看護専門看護師)	1
	遠藤 英俊 (内科総合診療部 部長)	2
	佐々木千佳子 (認知症看護認定看護師)	3
認知症高齢者の看護・実習 (講師数 3 名) (延べ講師数 6 名)	藤崎 あかり (認知症看護認定看護師)	3
	高道 香織 (老人看護専門看護師)	5
	高道 香織 (老人看護専門看護師)	-
高齢者のエンドオブライフ・ケア (講師数 4 名) (延べ講師数 5 名)	佐々木千佳子 (認知症看護認定看護師)	-
	藤崎 あかり (認知症看護認定看護師)	-
	高道 香織 (老人看護専門看護師)	-
	三浦 久幸 (在宅連携医療部 部長)	1
高齢者の看護実践論 1・2 (講師数 8 名) (延べ講師数 11 名)	西川 満則 (緩和ケア診療部専従医師)	1
	横江 由理子 (緩和ケア認定看護師)	1
	高道 香織 (老人看護専門看護師)	2
高齢者看護実践論 1・2 (講師数 8 名) (延べ講師数 11 名)	磯貝 善蔵 (皮膚科 医長)	1
	近藤 和泉 (機能回復診療部 部長)	1
	新美 千佳 (脳卒中リハビリテーション認定看護師)	1
	前川 裕子 (感染管理認定看護師)	1
	横山 剛志 (副看護師長 排尿機能検査士)	1
	伊藤 史朗 (摂食・嚥下障害看護認定看護師)	2
鈴木 葉子 (摂食・嚥下障害看護認定看護師)	2	
高道 香織 (老人看護専門看護師)	2	

表7 事例検討ファシリテーター

講座名	ファシリテーター
高齢者の在宅医療	高梨 早苗(老人看護専門看護師)
高齢者のエンドオブライフ・ケア	高梨 早苗(同上)
	猪口 里永子(西病棟看護師)

表8 院外講師

講座名	講師	担当コマ数
高齢者の在宅医療	上地 小与里 (ほのか薬局 薬剤師)	1
	太田 秀樹 (医療法人アスミス 理事長)	1
	突田 和(愛知県看護協会訪問看護認定看護師教育課程専任教員)	1
高齢者のエンドオブライフ・ケア	齋田 綾子 (公立七日市病院 老人看護専門看護師)	1
	櫻井 智穂子 (東京医療保健大学医療保健学部 准教授)	1
	百瀬 由美子 (愛知県立大学看護学部 教授)	1
高齢者看護実践論	桑田 美代子 (青梅慶友病院 老人看護専門看護師)	1
	丸岡 直子 (石川県立看護大学看護学部 教授)	1

5. 各講座の内容

1) 高齢者の医療1・2

「高齢者の医療1」「高齢者の医療2」は、老年医学を中心としたカリキュラムで、老化に関する諸学説や、加齢に伴う変化や高齢者の特徴、老年症候群や虚弱の概念、CGA、高齢者に多い疾患とその治療などについて医師・薬剤師が講師となって講義を行った(表9～12)。

表9 「高齢者の医療1」の講義内容

日程	講師	講義
1日目	鳥羽 研二	加齢医学総論・Aging Science と臨床
	佐竹 昭介	高齢者の栄養評価
	吉田 正貴	高齢者の排尿障害
2日目	角 保徳	高齢者の口腔外科疾患・口腔ケア
	服部 英幸	高齢者のうつ
	清水 敦哉	心不全・虚血性心疾患・不整脈
3日目	杉浦 彩子	高齢者の聴覚・平衡覚・嚥下機能
	櫻井 孝	認知症の基礎知識

表10 「高齢者の医療1」 時間割

時限	講義時間	1日目	2日目	3日目
		9月4日(水)	9月5日(木)	9月6日(金)
1	9:00～10:30	開講式・オリエンテーション 10:00～10:20		
2	10:30～12:00	鳥羽(90) 加齢医学総論	角(90) 口腔外科疾患	杉浦(90) 感覚器・嚥下機能
3	13:00～14:30	佐竹(90) 栄養評価	服部(90) 高齢者のうつ	櫻井(90) 認知症
4	14:40～16:10	吉田(90) 排尿障害	清水(90) 循環器疾患	アンケート・修了式
予備	16:20～17:15	アンケート	アンケート	14:30～15:30

表 11 「高齢者の医療2」の講義内容

日程	講師	講義
1 日目	原田 敦	ロコモティブシンドロームー腰痛、膝痛、筋肉減少、転倒・骨折の見方ー
	鳥羽 研二	高齢者総合機能評価・老年症候群
	鷺見 幸彦	神経疾患について・神経所見の取り方・高次神経機能のみかた
2 日目	溝神 文博	高齢者の薬物療法
	西村 浩一	COPD・気管支喘息・細菌感染症について
	徳田 治彦	骨粗鬆症
3 日目	服部 英幸	せん妄
	清水 敦哉	高齢者の救急医療

表 12 「高齢者の医療2」 時間割

時限	講義時間	1 日目	2 日目	3 日目
		9 月 10 日(火)	9 月 11 日(水)	9 月 12 日(木)
1	9:00~10:30	オリエンテーション 10:00~10:20		
2	10:30~12:00	原田(90) ロコモ	溝神(90) 高齢者の薬物療法	服部(90) せん妄
3	13:00~14:30	鳥羽(90) CGA・老年症候群	西村 (90) 肺炎・COPD	清水(90) 高齢者の救急医療
4	14:40~16:10	鷺見(90) 神経疾患・神経所見	徳田(90) 骨粗鬆症	アンケート・修了式 14:30~15:30
予備	16:20~17:15	アンケート	アンケート	

## 2) 高齢者の在宅医療

「高齢者の在宅医療」は、地域・在宅へ退院する際の高齢者連携や在宅医療の実際、地域・在宅での療養を支援する際に必要な福祉制度の講義などを学習した。現在、地域・在宅で活躍する医師、薬剤師、訪問看護の経験や病院の地域連携室で勤務する医療者が講師となって講義を行った(表 13・表 14)。

表 13 「高齢者の在宅医療」の講義内容

日程	講師	講義
1 日目	銘苺 尚子	高齢者の退院支援
	高見 雅代	高齢者医療福祉制度
	上地 小与里	訪問薬剤師の実践活動
2 日目	大島 浩子	在宅の看取り
	銘苺 尚子	在宅医療の処置・管理技術
	突田 和	生活を支える看護
3 日目	太田 秀樹	在宅医療と地域連携
	高道 香織	事例検討

表 14 「高齢者の在宅医療」 時間割

時限	講義時間	1 日目	2 日目	3 日目
		9 月 17 日(火)	9 月 18 日(水)	9 月 19 日(木)
1	9:00~10:30	オリエンテーション 10:00~10:20		
2	10:30~12:00	銘苺(90) 退院支援	大島(90) 在宅の看取り	太田(90) 在宅医療と地域連携
3	13:00~14:30	高見(90) 高齢者医療福祉制度	銘苺 (90) 在宅医療管理技術	高道(90) 事例検討
4	14:40~16:10	上地(90) 訪問薬剤師の実践	突田(90) 生活を支える看護	アンケート・修了式 14:30~15:30
予備	16:20~17:15	アンケート	アンケート	



### 3) 認知症高齢者の看護

「認知症高齢者の看護」は、認知症の病態や治療に関すること、パーソンセンタードケアについて、認知症の人とのコミュニケーション、BPSD への対応、家族介護者への支援などについて学んだ(表 15・表 16)。老年科医、認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師らによって講義や事例検討を行った。

表 15 「認知症高齢者の看護」の講義内容

日程	講師	講義
1 日目	遠藤 英俊	認知症の医療
	藤崎 あかり	認知症ケアの基本
	高道 香織	認知症高齢者とのコミュニケーション
2 日目	高道 香織	家族介護者への支援
	佐々木 千佳子	BPSD への対応
	高道 香織	認知症ケアの倫理
3 日目	佐々木・藤崎・高道	事例検討

表 16 「認知症高齢者の看護」の時間割

時限	講義時間	1 日目 10 月 2 日(水)	2 日目 10 月 3 日(木)	3 日目 10 月 4 日(金)
1	9:00~10:30	オリエンテーション 10:00~10:20		佐々木・藤崎・高道(90) 事例検討
2	10:30~12:00	遠藤(90) 認知症の医療	高道(90) 家族介護者への支援	佐々木・藤崎・高道(90) 事例検討
3	13:00~14:30	藤崎(90) 認知症ケアの基本	佐々木(90) BPSD への対応	アンケート・終了式 12:10~13:00
4	14:40~16:10	高道(90) コミュニケーション	高道(90) 認知症ケアの倫理	
予備	16:20~17:15	アンケート	アンケート	

### 4) 認知症高齢者の看護・実習

「認知症高齢者の看護・実習」は、当院西病棟(認知症疾患センター内認知症専門病棟)において認知症高齢者を受け持ち、病棟のケア活動に参加しながら看護実践を行った。最終日は、認知症ケアの基本や知識を踏まえた根拠のある看護について理解を深めることをねらいとして、昨年度の「認知症高齢者の看護」の研修受講から今年度の本実習を受講するまでの 1 年間に実践してきた認知症ケアを踏まえ、受講者同士でディスカッションや振り返りを行った(表 17)。

表 17 「認知症高齢者の看護・実習」のスケジュール

実習時間	1 日目	2 日目	3 日目
8:30~10:00	実習オリエンテーション 受け持ち高齢者紹介		受け持ち高齢者との かかわりの振り返り
10:00~16:00	西病棟実習 (休憩 1 時間)	西病棟実習 絵画教室参加 DSTラウンド参加 認知症ケアチーム会見学 など (休憩 1 時間)	この 1 年間の 認知症高齢者への対応・ ケアに関するリフレクション  アンケート・終了式 14:30~15:00
16:00~17:00	カンファレンス・記録	カンファレンス・記録	

## 5) 高齢者のエンドオブライフ・ケア

「高齢者のエンドオブライフ・ケア」は、エンドオブライフ・ケアに関する概論、高齢者の権利擁護や意思決定支援、老いや死に関すること及びケア、症状緩和ケアなどについて学んだ。事例検討もを行い、研修後の看護実践に生かされるよう意見を交わした(表 20・表 21)。老年看護学やエンドオブライフケア講座の大学教授、老年科医、緩和ケア専従医、緩和ケア認定看護師、老人看護専門看護師らが講師となって講義や事例検討を行った(表 18、表 19)。

表 18 「高齢者のエンドオブライフ・ケア」の内容

日程	講師	講義
1 日目	三浦 久幸	老いや死の価値
	齋田 綾子	高齢者の終末期看護
	櫻井 智穂子	EOL ケアの基本について
2 日目	西川 満則	症状緩和ー疼痛・呼吸困難・嘔気・嘔吐・気持ちのつらさなどー
	横江 由理子	死のプロセス・全人的ケア
	高道 香織	高齢者の意思決定支援
3 日目	高道 香織	事例検討
	百瀬 由美子	高齢者の尊厳と終末期における倫理的課題

表 19 「高齢者のエンドオブライフ・ケア」の時間割

時限	講義時間	1 日目 10 月 16 日(水)	2 日目 10 月 17 日(木)	3 日目 10 月 18 日(金)
1	9:00~10:30	オリエンテーション 10:00~10:20		
2	10:30~12:00	三浦(90) 老いや死の価値	西川(90) 症状緩和	高道(90) 事例検討
3	13:00~14:30	齋田(90) 高齢者の終末期看護	横江(90) 死のプロセス・全人的ケア	百瀬(90) 高齢者の権利擁護
4	14:40~16:10	櫻井(90) EOL ケアの基本	高道(90) 高齢者の意思決定支援	アンケート・終了式 14:30~15:30
予備	16:20~17:15	アンケート	アンケート	

## 6) 高齢者看護実践論1・2

「高齢者看護実践論1」「高齢者看護実践論2」は、高齢者の特性に焦点をあてた転倒予防やリハビリテーション、感染予防、創傷管理、排泄ケアなどの根拠となる知見について理解を深め、看護実践の方法を学んだ。(表 22~表 25)。転倒予防や摂食・嚥下障害看護に関する講義後には、事例検討もを行い、各受講者の所属やチームにおける現状の情報交換や、今後の看護実践のむけての意見交換を行った。「高齢者看護実践論1」では、看護管理や転倒予防を研究している大学教授、リハビリ科医、老年科医、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、老人看護専門看護師らが講師となり、「高齢者看護実践論2」では、皮膚科医、感染管理認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、排尿機能検査士、老人看護専門看護師らが講師となって講義を行った(表 20~23)。